

温故知新 考える 川西の未来

危機感を共有する

進む少子高齢化／希薄化する地域のつながり

磯部 川西市の将来を考える上で、少子高齢化がどのようなスピードで進んでいくのか、また、それが将来にどのような影響を及ぼしていくのか不安に思っている人も多いと思います。

22年度厚生労働白書の資料では、日本的人口は16年をピークにほぼ横ばいが続いています。昨年の国勢調査では、わずかに増加しているようですが、約40年先には1億人を切るという予測で、世界で一番早く高齢化が進むといわれているんですね。

それに、もう一つ、合計特殊出

生率では、人口が増えるために一人の女性が生涯で生む子どもの数は2以上必要といわれていますが、1・37まで低下しています。人口が減少する中で出生率が上がらないのですから、人口に占める高齢者の割合も急速に高くなっています。このような国全体の状況がありますが、川西市としても今後どのようなことが考えられるでしょうか。

市長 川西の人口も、17年からずっと約16万1千人と横ばいが続いている（資料1参照）。問題はこの中身です。高齢化率が上昇

率（15歳以上65歳未満の人口）の減少は、税収に影響があります。しかし、川西は個人市民税のウエイトが高く、法人市民税の割合が低いものがこれから大きな課題になります。地域によって高齢化率に違います。高齢化率のウエイトが高く、財政基盤の強化などがありますが、高い地域では約38%（資料2参照）のところもありますからね。

磯部 高齢化がかなり進んでいるということは、地域としてどういうところに影響があると思います。

山本 高齢化が進むのは止められない流れではないでしょうか。人口が減ってきますから、住む所が選ばれる時代になってくると思います。選別されて、人口が増えます。地域によって高齢化率に違います。高齢化率のウエイトが高く、財政基盤の強化などがありますが、高い地域では約38%（資料2参照）のところもありますからね。

ただでなく、お世話になった人への感謝の気持ちなどを育てる德育を、さまざまな場面で培っていくとともに元気になつてていきます。が、それだけでなく、市民の皆さんの価値観の多様化ということが

磯部 これからまちづくりを考えるにあたって、少子高齢化が大きな背景にあるわけです。川西出身の植村花菜さんの歌がブレイクしましたよね。自分を見つめ直し、人に感謝する内容なんですが、比較的若い年代の人があの歌に感動したことは嬉しいことだと思っています。

我々が経験してきたいわゆるバブル時代は、モノに託した時代でした。その後遺症が出ているのではないかでしょうか。まちが元気になるためには経済の活性化も必要なだけではなく、お世話になつた人への感謝の気持ちなどを育てる德育

なるためには地域に愛着をもち、人と人との絆づくりが、より必要になってくると思います。そのためには、次代を担う子どもたちが大切だと思います。

市長 その通りだと思います。

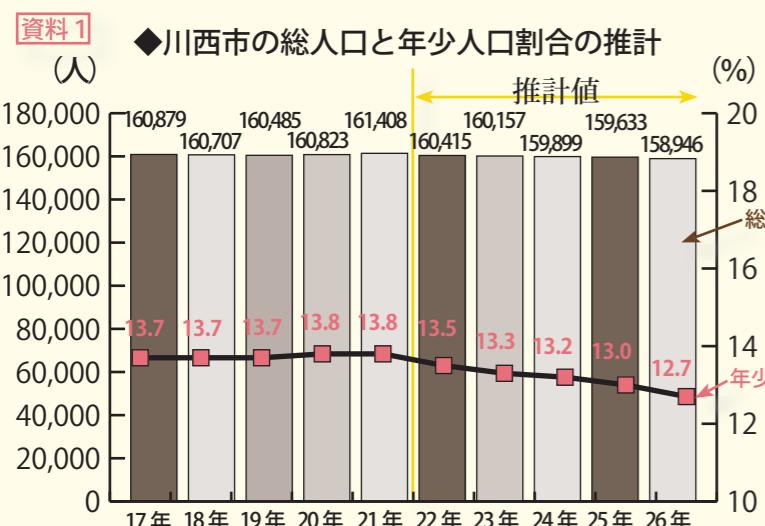
3

2

特集 総合計画の策定に向けて



△郷土館（平賀邸）の書斎で、川西市の未来について語り合う磯部さん（左）と大塩市長（中央）と山本さん（右）



※住民基本台帳・外国人登録人口（3月末日）、21年のみ9月末日、22年以降は推計値
※年少人口とは、総人口における0歳以上14歳以下の年齢層人口の割合
※出典：次世代育成支援対策行動計画（後期計画）資料（22年3月策定）

◆市内の主な大規模団地の高齢化率など

23年3月31日現在

団地名	世帯数	人口	販売開始年	高齢化率
多田グリーンハイツ	6,227	14,786	昭和42年	36.7%
大和団地	4,758	11,423	昭和43年	36.8%
清和台	5,184	13,416	昭和45年	29.3%
萩原台	1,518	3,758	昭和47年	36.0%
湯山台	1,381	3,244	昭和48年	38.3%
市全体	67,070	160,907		25.2%

※世帯数・人口・高齢化率は住民基本台帳・外国人登録人口（3月末日）、町別人口集計表の町名（住居表示）から算出
※高齢化率とは、総人口における65歳以上の割合



特集 総合計画の策定に向けて

未来を切り開く

地域の個性に合わせて／郷土愛が育てる地域力

の職員も拾うけれども私たち市民もやります。一緒にやりましょう」と、いつ「参画と協働」がひとつつのポイントになつてくると思います。

ただ、地域で中心になつて活動をしている人たちへは思いが伝わつても、なかなか地域全体に広がつていかないんです。

時間がかかるっても広めていくことが大切ではないでしょうか。

A portrait of a woman with short dark hair, smiling broadly. She is wearing a dark pinstripe blazer over a light-colored top. Her hands are clasped in front of her. The background shows a wooden bookshelf filled with books.

大切なことだと思います。どの世代ということを問わず、気持ちよく暮らしていくための工夫が必要です。
ただ、同じ川西市内でもニュータウンと昔からのまちでは事情が違いますから、それぞれの地域に合わせて考える必要があります。
機部 「それぞれの地域に合わせて」っていう言葉、すごくよく分かるんです。それぞれの地域で
困つてることとか、便利なこととか違いますよね。 例えば、交通の便がいいところ、悪いところ。若い世代が多いところ、高齢者が多いところなど、それによって問題や課題は違います。

市長 今考えられることは、例えば、一定の権限と財源を地域に任せるというシステムが必要ではないかということです。地域にはそれに特徴がありますから。	市長 今考えられることは、例えば、一定の権限と財源を地域に任せるというシステムが必要ではないかということです。地域にはそれに特徴がありますから。
市長 今考えられることは、例えば、一定の権限と財源を地域に任せるというシステムが必要ではないかということです。地域にはそれに特徴がありますから。	市長 今考えられることは、例えば、一定の権限と財源を地域に任せるというシステムが必要ではないかということです。地域にはそれに特徴がありますから。

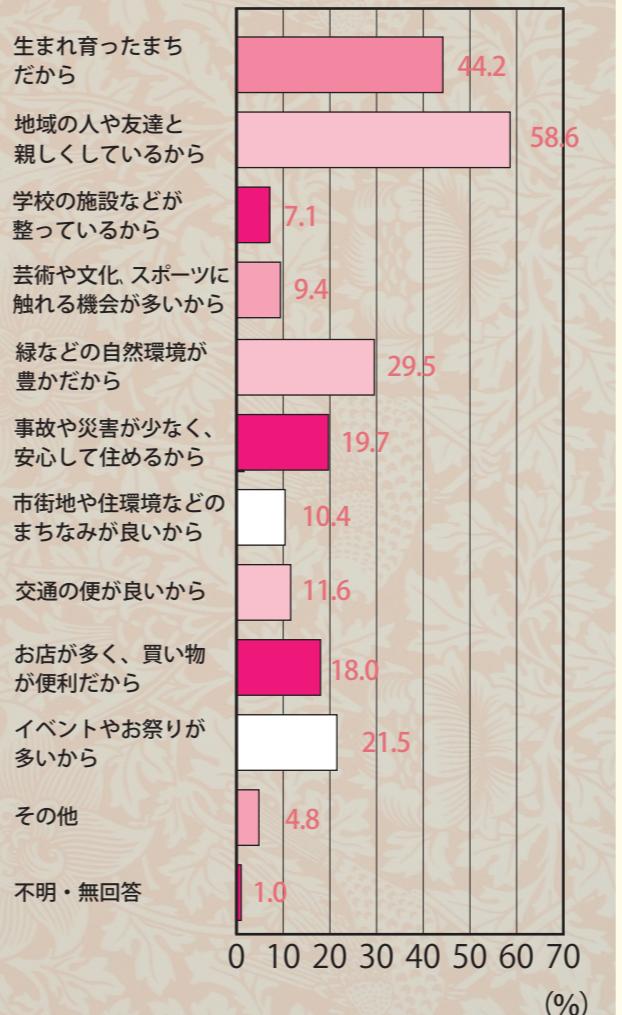
中学生への市民意識調査

市内の公立中学校に通う1～3年生から抽出した768人を対象に、23年1月に実施した調査結果の一部を紹介します。

◆「あなたは、川西市が好きですか」という問い合わせに対し、「まあまあ好き（54.1%）」「好き（29.5%）」となっており、8割以上の中学生が川西市に愛着を持っています。

また、川西市を好きな理由としては、下のグラフのとおり「人や地域とのつながり」についての回答が最も多くなっています。

▶川西市を好きな理由



※ 25年からスタートする第5次総合計画策定に向けて、市民の皆さんに協力していただいた「市民実感調査（一般）」「市民意識調査（一般・中学生）」の結果を取りまとめました。6月1日㈬から市ホームページや市役所2階の市政情報コーナーで閲覧できます。詳しくは政策課☎(740)1120へ。

磯部 これからのもちづくりに向けて、背景などについてお話ししてきましたが、川西市ではかつての二ユータウンの高齢化が急速に進み、オールド二ユータウンに変わっていく現状があります。これについては、どうでしょうか。

山本 オールド二ユータウンといいますが、今は、退職してもまだ工ネルギーのある人が増えていますし、大和団地で取られたアンケート結果では、皆さん住み続けたいと思っているようです。

地域の高齢化が進んでも、不安

に思うのではなく、自分たちの手で、住みやすい快適な地域にする
覚悟が必要ではないでしょ
うか。

今まで会社などで發揮してきた力で、自分たちが住んでいる家の

少子高齢化や生活形態の変化に
よつてニーズが多様化している一
方で、行政が対応できる範囲は限
られています。

行政に言えば対応してくれると
いう時代ではないと思います。

磯部 次世代の人たちに、いろ
いろな地域活動に積極的に参加し
てもらわないといけないというの
が大きな課題ですね。

市長 そうですね。今年の施政
方針では「地域分権元年」をメー
ンテーマに掲げています。

今、地域活動をしていただいて

いる皆さんは意識が高いのです
が、まだまだ 地域のことは行政
が主体となつてするものだとさう
人も少なからずおられます。
そこをどう変えていけるか。公
共の担い手は、行政だけではなく
さまざまな主体があるといつこ
と。

そういう意味からも将来を見た
ら、**地域分権**制度は必要に
なつてくると思います。

皆さん総論は賛成なんですが、各論
になるといろいろなご意見が
あります。今後、しっかりと議論
していきたいと思います。

川西の現状を見る

元気な高齢者の増加／まちづくりの意識転換

A portrait of a middle-aged man with dark hair, smiling warmly at the camera. He is wearing a dark suit jacket over a white shirt and a patterned tie. A small, light-colored pin or emblem is visible on his left lapel. His hands are clasped in front of him, suggesting a gesture of welcome or explanation. The background is slightly blurred, showing what appears to be an indoor setting with warm lighting.

いる皆さんは意識が高いのです
が、まだまだ、地域のことは行政
が主体となつてするものだといふ
人も少なからずおられます。
そこをどう変えていけるか。公
共の担い手は、行政だけではなく、
さまざまの主体があるといふこ
と。

山本 それは、地域を好きになつてもうえれば解決するようになります。川西市はあまり特徴がないまちかも知れませんが、子どもころに遊んだ記憶とか思い出が、このまちを好きになつてきっかけになるのではないでしょ

うか。

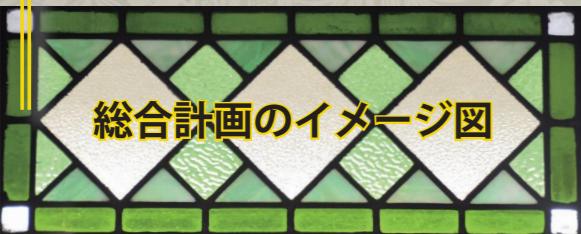
市長 地域の夏祭りに行くと、たくさん子どもがいます。第2のふるさとになつて、夏祭りには帰つてくる若い世代も多いです。自分が育つた所に愛着を持っているのだと思います。そういう人たちに、将来、川西に帰つてきてもらうためにどう仕掛けをしていくかなど、ひとつですね。

山本 自治会長さんや住んでいた人は、まちをこうしたいとかああしたいとか、いろいろな想いを持つているのではないかでしょうが。そうした想いを生かして、まちのコンセプトという特徴を出していくことも必要だと思います。そういうことから関心をもつてもうえることもありますよ。

山本 それには、自分が育つた所に愛着を持っているのだと思います。そういう人たちに、将来、川西に帰つてきてもらうためにどう仕掛けをしていくかなど、ひとつですね。

市長 地域の夏祭りに行くと、たくさん子どもがいます。第2のふるさとになつて、夏祭りには帰つてくる若い世代も多いです。自分が育つた所に愛着を持っているのだと思います。そういう人たちに、将来、川西に帰つてきてもらうためにどう仕掛けをしていくかなど、ひとつですね。

特集 総合計画の策定に向けて



◆総合計画と分野別計画の関係

〈川西市の将来の都市像〉 基本構想（構想期間 10年）

前期基本計画
(平成 25 ~ 29 年) 後期基本計画
(平成 30 ~ 34 年)

実施計画 実施計画

財政収支計画

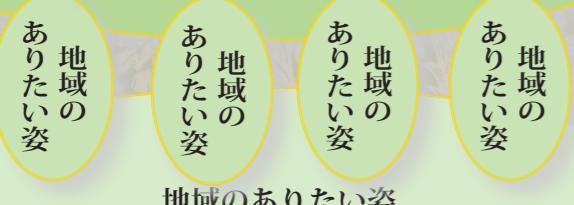
行財政改革推進計画

各種の分野別計画
(福祉・教育・環境・安全・産業・自治体経営など)

第5次総合計画

◆基本構想とありたい姿の関係

基本構想=地域ごとのありたい姿の総和



実現には参画と協働が必要



夫婦も入って、ゆっくりしたいと思うお店なんかを増やせたら、まちの重みというか品格が出る。

素材はたくさんあります、それが生かせないと思います。もっと上手に使って活用し

品格のあるまちにしたいですね。

これから取り組むべきは、新しいものや古いものそれをどう融合するかということで、川西の中身をもつともつと知つてもらつて、本当の意味でゆとりのあるまちにしたいと思います。

山本 この郷土館も歴史がある建物で、こういう雰囲気で食事ができたらいいですよね。

市長 ここに限らず、川西には貴重なものがたくさんあります。それらに新しいものを融合させながらPRしていきたいです。

山本 今回、総合計画の策定にあたって、アンケートなどを取ることもあると思いますが、市民の人々に自分が好きな川西を書いても

山本 その10年の計画では、子どもたちが大きくなつてまた住みたいと思えるような、分かりやすく魅力あるまちづくりをめざすものになればいいですね。

山本 施設や制度だけでなく、近所とか自治会、先ほどの「ゆるいネットワーク」など、いろいろな要素が積み重なつて地域の魅力になるんだと思います。

山本 それぞれの場の中で、少しだけ地域全体のことを考えて行動したら、いいこともあるねって思えるようなら、いいことがあります。

山本 繰り返しになりますが、モノに価値観を求めるのではなく、これからは、人と人の絆がま

いかも知れませんね。

山本 ちづくりの原点になると思います。

市長 市民の皆さんにどう伝えていくかが難しい。内部でいろいろなことをやつしていますが、それを行政の中だけで話を済ませるのではなく、市民の皆さんにちゃんと理解してもらえるように、その仕掛けをしていかないと

山本 ちづくりの原点になる思います。

市長 そうですね。第5次総合計画は、市民としては分かりやすい目標が欲しいですね。

山本 川西というまちはこういうまちだと、もっと分かりやすくしたいですね。

市長 例えば、「地域力が日本一」だととか、「地域の人はみんな知り合いのまち」だと、そんなまちのイメージを売りにしていきたいです。

山本 それがすべてにつながりますね。

市長 やつぱり、そこに住んでいる皆さんのがお互いに助け合つているんだという意識を、どう持つてもらえるかということだと思います。

山本 本日、お話をいただいた中で、総合計画という川西のまちの将来を決める計画の策定にあたって、やはり地域ごとの課題をとらえる必要があると再認識しました。

市長 策定過程では、担当者が地域に

きつかけをつくり、できるだけ関心を持つてもらつことが必要ですね。

磯部 行政の人も頑張つてくれていますが、私たち、ここに住む地域の人間も頑張りたいですね。各地域ごとにそういう魅力を探して、自慢し合える自慢大会をしたらどうでしょう。

市長 2年前に行われた市民ミュージカル「川西の金太郎」は、2日目の方が多く人が来場されました。これは、初日に観た人に感動を与えたから、人から人へどんどん伝わつたんです。

山本 2日目の方が多いことに、心をもつて、関心が高まつて、本当に意味でゆとりのあるまちにしたいと思います。

いまだ行政がするものという感覚があると思います。

山本 私たちも近くの会館をつぶすか自分たちで管理するかで話をしたときに、関心が高まつて、いつになく人が集まって議論をしたんです。なくしてしまったのは簡単ですが、やっぱり残す方向で役員みんなで動いて良かつたなあと思うんです。

地域にはそういう課題がたくさんあると思います。

市内でも、高校の同級生とか、お気に入りのお店に集まる人といった「ゆるいネットワーク」で行うイベントがありますが、地域活動でも、もっと親しみやすい言葉や気軽さも大事じゃないでしょうか。

磯部 確かに、いろいろな立場の人が顔を合わせて話をすることが大事で、何かを企画して実際に「ああ良かつたね」と最後に心の中に財産ができることが大切です。行政だと、自治会だと、コミュニケーションなど。

磯部 確かに、いろいろな立場の人が顔を合わせて話をすることが大事で、何かを企画して実際に「ああ良かつたね」と最後に心の中に財産ができることが大切です。行政だと、自治会だと、コミュニケーションなど。

磯部 「参画」とか「協働」という言葉も分かりやすくなると、あります。

磯部 「参画」とか「協働」という言葉も分かりやすくなると、あります。

磯部 まだまだ、行政がするものという感覚があると思います。

山本 私たちも近くの会館をつぶすか自分たちで管理するかで話をしたときに、関心が高まつて、いつになく人が集まって議論をしたんです。なくしてしまったのは簡単ですが、やっぱり残す方向で役員みんなで動いて良かつたなあと



川西らしさを創る 人と人の絆がまちづくりの原点